

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.5 2012年3月15日号

編集: [editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告: [pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

### 日立ソリューションズ、日本と米欧市場に向け 次世代コラボレーションシステム発売

株式会社日立ソリューションズ(東京都品川区)は、次世代コラボレーションシステム「Hitachi Advanced Collaboration System」を開発し、日本と米欧市場に向け3月1日より販売を開始する。(2月14日)

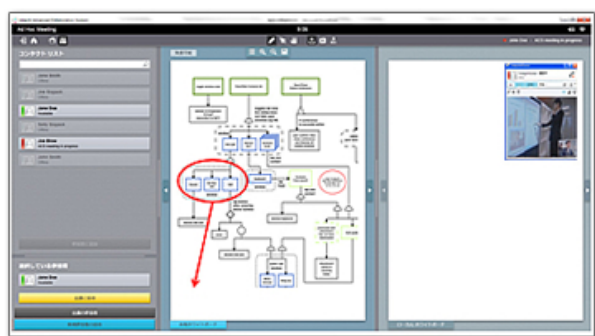


図1:「Hitachi Advanced Collaboration System」の画面

Hitachi Advanced Collaboration System 画面例 (日立ソリューションズ資料)



図2:「Hitachi Advanced Collaboration System」の特長

Hitachi Advanced Collaboration System の特長 (日立ソリューションズ資料)

Hitachi Advanced Collaboration System は、同社が開発したホワイトボードソフトウェアに、マイクロソフトのユニファイドコミュニケーション「Microsoft Lync」、グループウェア

「Microsoft Exchange Server 2010」、文書管理システム「Microsoft SharePoint Server 2010」を連携。

機能としては、音声・映像・資料共有機能の他、書き込み、参加招集、データ保存、録画、資料表示、スケジューラーと連携した会議開催などの機能を提供している。また会議予約を設定し参加者の招集を行う前に、コンタクトリスト(プレゼンス)を使用して、相手の検索や在籍状況の確認も行えるようになっている。以上の操作は簡単なワンタッチ操作で行えるという。日、英、独、伊、仏の5カ国語に対応。

使用端末は、パソコン、スマートフォン(今後対応)、インタラクティブホワイトボード「StarBoard(同社製品)」となっており、自席から外出先、そして会議室までの利用環境に対応している。

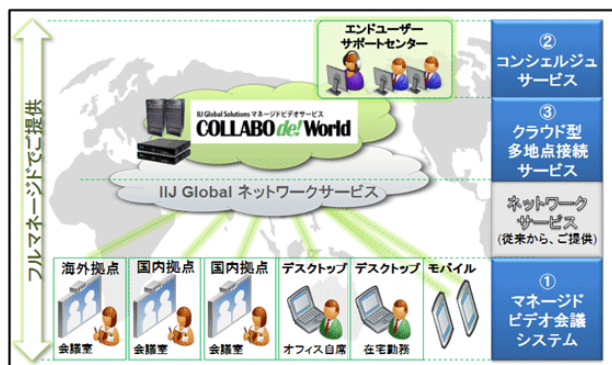
価格例としては、1,000 ユーザで利用の場合、15,750,000円(税込み)。ただし、利用ユーザ数分のライセンスが必要になる。また、構築費用およびサーバ機器などの費用は含まれていない。別途 Microsoft Lync の環境が必要になる。

## IIJ グローバルソリューションズ、シスコのビデオ会議を活用した SaaS 型ビデオ会議サービスを開始

株式会社IIJグローバルソリューションズ(東京都千代田区)は、SaaS 型マネージドビデオ会議サービス「COLLABO de! World(コラボ・デ・ワールド)」を4月より提供開始すると発表。(2月21日)

COLLABO de! World は、シスコシステムズ合同会社(東京都港区)のビデオ会議システムと IIJ のクラウドサービス「IIJ GIO サービス」を活用。シスコ製ビデオ会議端末の提供とビデオ会議の利用に必要な国内外のネットワークやデータセンターの設計・調達・導入・運用とヘルプデスクをワンストップで提供するフルマネージド・サービス。顧客の運用管理負

担を大幅に低減できるという。



**COLLABO de! World サービス概要 (IIJ グローバルソリューションズ資料)**

提供されるサービスは以下の通り。(1) 世界各国でのスコ製ビデオ会議システムの機器提供。提供予定機種: 「Cisco TelePresence System Profile シリーズ」、「Cisco TelePresence System EX シリーズ」、「Cisco TelePresence System MX シリーズ(提供予定)」、「Cisco Jabber Video for TelePresence(旧 Movi)」。

(2) 顧客に代わって拠点側とセンター側機器の初期設定、運用監視をIIJグローバルが実施。センター装置は、顧客拠点以外にIIJグループのデータセンターにも設置することが可能。

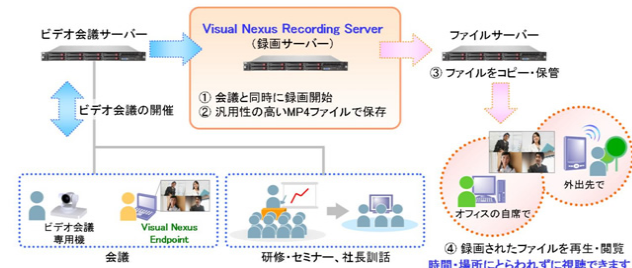
(3) コンシェルジュ・サービス(5月開始予定)。顧客側管理者だけでなくビデオ会議を利用するエンドユーザへの直接サポートを提供する。ビデオ会議システムの使用法、会議予約の支援、万一の障害受付などさまざまな問い合わせを24時間365日マルチリンガルでグローバルに対応する。

(3) クラウド型多地点接続サービス(2012年7月開始予定)。IIJグローバルがビデオ会議の多地点接続機能を、共用クラウドサービスとしても提供する。

IIJグローバルソリューションズは、法人向けWANサービス事業等を展開する株式会社インターネットイニシアティブ(東京都千代田区)の100%子会社。

**沖電気工業、ビデオ会議録画サーバの販売を開始**

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム「Visual Nexus」の新たなラインナップとして、ビデオ会議の内容を録画する「Visual Nexus Recording Server」を2月15日より販売開始。(2月15日)



**利用イメージ (沖電気工業 資料)**

**カメラ映像のみのレイアウト**



**カメラ映像と資料共有のレイアウト**



**レイアウト例 (沖電気工業 資料)**

これにより沖電気工業は、ビデオ会議の開催から内容の録画、再生の環境を一貫して提供するビデオ会議録画ソリューションを実現したことになる。

Visual Nexus Recording Server の録画方式は、MP4 ファイル形式。カメラ映像と資料共有を一画面に同時に記録することができる。研修やセミナーであれば、講師が話した内容や提示した資料のほか、出席者との質疑応答も同時に録画することができる。また録画時には、カメラ映像のみのレイアウト

か資料共有ありのレイアウトと自動的に切り替わるようになっている。加えて、録画は、1TB のハードディスクに保存。標準画質で 1000 時間の録画が可能。別途容量の増設にも応える。

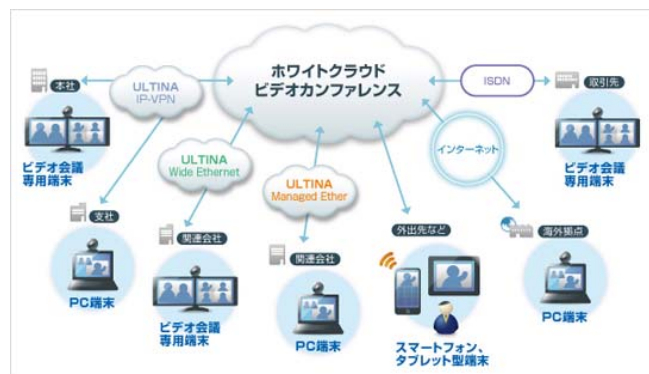
さらには、外部のビデオ・オンデマンド・システムや e ラーニングシステムと連携することで、動画コンテンツの視聴管理や動画コンテンツを教材として既存の研修システムに取り込むなどの運用も可能という。

今回録画サーバを発表した背景には、ビデオ会議の利用用途の拡大がある。ビデオ会議の用途が打合せから研修やセミナーでの活用まで広がっていることから、動画コンテンツとして保存し、幅広く活用したいというニーズが増えしてきたという。

販売価格は、オープン。沖電気工業としては、3 年間で 1000 ライセンスの販売を目指す。

### ソフトバンクテレコムのクラウド型ビデオ会議サービス、iPhone や iPad に対応

ソフトバンクテレコム株式会社(東京都港区)は、同社が提供するクラウド型ビデオ会議サービス「ホワイトクラウド ビデオカンファレンス」において、スマートデバイスから接続できる機能を追加して提供を開始すると発表。(2 月 15 日)



提供イメージ (ソフトバンクテレコム資料)

ホワイトクラウド ビデオカンファレンスは、多地点でのハイビジョンビデオ会議に必要な接続機能をクラウド型で提供するサービス。ユーザは自社でビデオ会議多地点接続サーバ(MCU)などのシステムを構築することなく、高品質なシステムを安価に導入できるというもの。

今回は、iPhone4、iPhone4S、iPad2 およびパソコンなどのモバイル端末と 3G や Wi-Fi ネットワークを使ってビデオ会議に接続できる新たな機能を追加した。



iPad でのビデオ会議の様子 (ソフトバンクテレコム資料)

特長としては、

以下のとおり。(1) 専用のアプリケーション(無料)をアップストアよりダウンロードして利用することができる。(2) ログイン ID と登録デバイスの一致を確認して管理するため、なりすましや ID 盗難を防ぐことができる。(3) 3G や Wi-Fi ネットワークを問わず、ネットワーク状況に応じて最適な映像を自動的に再生する。(4) モバイル端末 2 台での接続から最大 120 台までの多地点接続が行える。会議の資料も全員で共有することが可能。(5) 他社製品のビデオ会議システムとの相互接続機能に対応。(6) スマートデバイスやビデオ会議端末の提供からネットワークの構築・運用保守まで対応する。(7) 運用ポートは、24 時間 365 日、ソフトバンクテレコムで対応。

初期費用は、5,250 円/ID、また月額費用は、3,150 円/ID となっている。なお、ビデオ会議端末接続と同時利用の場合は、月額費用 2,100 円/ID が適用される。その他詳細は同社へ確認要。

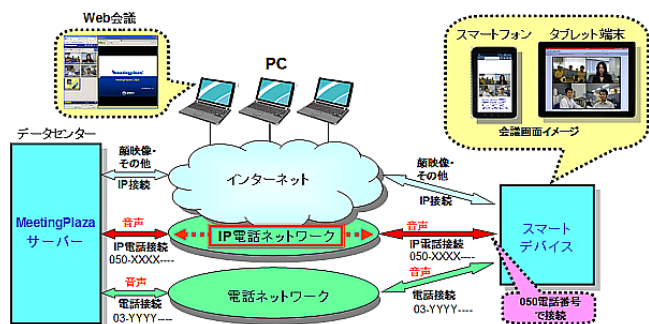
### NTT アイティの Web 会議 ASP サービス、IP 電話接続機能に対応

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、同社が提供する Web 会議「ミーティングプラザ(MeetingPlaza)」の ASP サービスにおいて IP 電話接続機能を可能にしたと発表。(2 月 16 日)

今回の発表は、Android、iPad、iPhone などのスマートフォンやタブレット端末から Web 会議に接続するユーザを対象としたもので、これらの端末が IP 電話サービスに加入すること

で、ミーティングプラザの電話接続用のアクセスポイントに IP 電話からも接続できるようにした。

この接続は、3月10日よりASPサービス契約者については無償で提供する。



#### IP 電話接続による Web 会議参加 (NTT アイティ 資料)

これまでの方法では、端末が持っている電話機能を使用して、電話回線から Web 会議に接続する方法を提供していた。電話回線はノイズや遅延が少ない反面、通話料が発生するため長時間利用する際の課題となっていた。

そこで、今回 ASP サービスにおいて IP 電話接続機能に対応することで、Web 会議への接続にかかわる通話料を無料にすることが可能になった。また、電話回線に対応していないタブレット端末においても、IP 電話サービスを利用することで、Web 会議に無料で接続することが可能になった。さらには、ASP サービスが、電話回線と IP 電話サービスによる接続に対応することで、ユーザは通信状況や会議内容に応じて、いずれかを使い分けることも可能になった。

ミーティングプラザは、2001 年から販売している Web 会議システム。ASP サービスとシステム販売両方で提供。導入実績は、3,000 社を越えるという。

ASP サービスは、月額 2,500 円の従量制プラン(フレックス2)から定額制プランまで豊富なプランを用意。VIP オンラインサービスやスマートテレワークサービスなどもラインナップ。

一方、システム販売では基本ライセンスは 140 万円(同時接続 16 端末)から規模に応じたパッケージ構成を準備。HD 解像度画像表示オプション、記録再生オプション、大

規模講演オプションなどある。加えてアプライアンス製品も提供している。

#### ビジネス動向-国内

#### パイオニアソリューションズ、リテールテックジャパン 2012 にてディスカッション テーブル (SUR40 パッケージ)を参考出品

パイオニアソリューションズ株式会社(神奈川県川崎市)は、東京ビックサイトで開催(3月6日から3月9日)された「リテールテックジャパン2012」マイクロソフトパートナーブースにおいて、「ディスカッション テーブル(SUR40 パッケージ)」を参考出品した。(3月8日)

パイオニアソリューションズは、2011年8月より「ディスカッション テーブル」を販売してきた。今回の SUR40 パッケージは、そのディスカッションテーブルの「SUR40」版となる。



ディスカッション テーブル(SUR40 パッケージ)利用イメージ (パイオニアソリューションズ資料)



画面イメージ (パイオニアソリューションズ資料)

SUR40 は、サムスン社が発表したテーブル型双方向液晶 PC。パイオニアソリューションズが開発し、すでにディスカッション テーブルで実装している「SCHEDA(スキューダ)」を組合せ、近未来スタイルプレゼンテーションおよびペーパーレスソリューションとして販売を検討している。



(写真上)社員カードを画面上に置くと関連の情報とファイルが表示される



(写真中)ディスカッションテーブルに保存されているファイルをスマートフォンに転送するところ。



(写真下)転送が完了しスマートフォンの画面に表示されたところ。

SUR40 パッケージにおいても、従来のディスカッション

テーブルの性能と機能は踏襲しつつ、SUR40の機能を盛り込んだ形で開発した。ディスカッションテーブルでの特長である Pad 型ディスプレイ、パソコンやタブレット端末、スマートフォン等との連携、遠隔会議システムの利用(オプション)が可能となっている。

SUR40 パッケージの主なポイントのひとつは、「**個別認証**」である。裏側にバーコード認証を貼付けたスマートフォンや社員カードを SUR40 の Pad ディスプレイ上の任意の位置に置くと、その周りにバーコード認証に紐づけられたファイル(資料や画像など)が表示されるようになっている。

スマートフォンについては、バーコード認証を画面に向けて置くと、関連する複数のファイルがそのスマートフォンを取り囲むように円形に並ぶ。一方で、社員カードについては、カードの横に荷札のようなものの上にその社員の顔写真と関連する複数のファイルが表示されるようになっている。ちなみにバーコード認証についてはユーザで個別に設定できるようになっているという。

それらのファイルは、ディスカッションテーブルの特長である指によるドラッグ&ドロップ操作が可能。たとえば、前ページの写真のように、スマートフォンに保存されているファイルを SUR40 パッケージ本体へ転送したり、あるいは、逆に SUR40 パッケージ本体に保存されているファイルをスマートフォンにドラッグ&ドロップしたりすることができる。

想定している利用シーンについて、パイオニアソリューションズによると、ディスカッションテーブルは、販売店舗などでの対顧客説明および販売の場面においてインパクトのある有効な商品説明が行えると説明する。

「商品やサービスの数が多くなり紙ベースの資料で説明するのが大変であるとか、担当者のスキルレベルによっては、必要な資料が準備できないなどで不十分な説明になる可能性がある。そういった際に、ディスカッションテーブルはとても有効だ。個別認証を使うことで商品やサービス毎に必要な資料を画面に呼び出すこともできるため、説明にもれがないようになるとともに、より視覚に訴えることのできる資料や映像を使ってわかりやすい説明が行える。」(パイオニアソリューションズ)

なお、パイオニアソリューションズでは、市場の需要に合わせて SUR40 パッケージの販売開始を検討している。SUR40 パッケージの価格については未定。

## ブイキューブ、シンガポールに R&D センターを開設

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、シンガポールに「ブイキューブ シンガポール R&D センター」を1月25日に開設したと発表。(2月14日)

シンガポールは、アジア各国へのアクセスに優れている。また高成長を続けている市場へのアプローチが容易であり、企業の研究開発拠点の設置に関してシンガポール政府が戦略的な補助政策を実施しているため優秀な人材が集まっているという。こういった背景から開設を進めてきたと同社では説明する。



「バイキューブ シンガポール R&D センター」の入居しているクロスコープ シンガポール(バイキューブ資料)



クロスコープ シンガポール エントランス(バイキューブ資料)

バイキューブでは、同センターについて、「V-CUBE」サービスをグローバル展開していく上での海外との窓口となる重要な拠点と位置づけている。将来的には技術ノウハウやスキルを集約し、バイキューブの技術分野の中核とすることも考えている。また、バイキューブ マレーシア(2009年、V-cube Malaysia Sdn. Bhd.)での営業展開も軌道に乗り始め、同センターが今後さらなるアジア圏でのサービス提供の強化、推進のためにも重要な役割を果たす。

バイキューブ シンガポール R&D センターは、当面日本人技術スタッフ数名が常駐し基盤を構築する。2012年度末までにシンガポール国内や近隣諸国から10名程度の技術者を採用する予定となっているという。

## 製品・サービス動向-海外

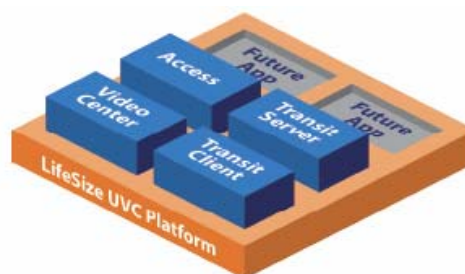
### ライフサイズ社、仮想化に対応したインフラストラクチャーソリューションを発表

ロジテック社(日本法人:株式会社ロジクール)のビデオ会議部門である米ライフサイズ社は、仮想化に対応したインフラストラクチャーソリューション「LifeSize UVC Platform」を発表。(1月31日)

LifeSize UVC Platform は、インフラ用アプリケーションをひとつのプラットフォームに統合したソフトウェアソリューション。複数のインフラアプリケーションを一元的に運用・管理することができるとともに、システムの柔軟性、拡張性そしてカスタマイズに特長がある。導入コストをおさえつつ必要な機能と性能を必要に応じて導入することが可能。

今回発表された LifeSize UVC Platform には、HD ストリーミング・レコーディング機能の「LifeSize UVC Video Center」、ファイアーウォール/NAT トラバーサル機能の「LifeSize UVC Transit Server」と「LifeSize UVC Transit Client」、そしてゲートキーパー機能である「LifeSize UVC Access」といったインフラアプリケーションが提供される。今後、今回発表された機能以外も追加される予定という。

従来、こういったインフラアプリケーションは、別々のアプリケーションとして稼働させるのが一般的だったが、ライフサイズ社は LifeSize UVC Platform で今回統合させることで、ユーザは、ワンインターフェイス、ワンログインで複数のインフラアプリケーションの機能を一元的に運用・管理することが可能になった。同社プレスリリースによると、これまでのインフラアプリケーションの運用管理の常識を覆すものと自負している。



LifeSize UVC Platform プラットフォーム概念図(ライフサイズ社 資料)

導入は、自社ハードウェアサーバに LifeSize UVC Platform

ソフトウェアをインストールする方法「LifeSize UVC バーチャルマシンソフトウェア」か、LifeSize UVC Platform ソフトウェアをプリインストールされたハードウェアアプライアンス「LifeSize UVC 1100 ハードウェアアプライアンス」のいずれかを選択する。

また、機能については、「Standard Edition」もしくは「Enterprise Edition」を選ぶ。加えて、キャパシティについてはいくつかのライセンスモデルを提供している。ユーザ数は十数から数千まで対応するとしている。

### アバイア社のユニファイドコミュニケーション、iPad に対応

米アバイア社は、「Avaya Flare Communicator for Apple iPad」を発表。(1月24日)

Avaya Flare Communicator for Apple iPad は、「Avaya Aura ユニファイドコミュニケーションアーキテクチャー」をベースに実現されている。

これまで、コンタクトリストから相手先を選び、インスタントメッセージング、メール、音声通話、ビデオ通話といったツールを統合した「Avaya Flare Experience」は専用タブレット端末 Avaya Desktop Video Device に搭載されて提供されていたが、今回の発表により、アップル社の iPad タブレットに対応することになる。アプリは、アップルストアより無償でダウンロードできる。iPad 以外の他のタブレット等への対応も予定されているという。

### ビジネス動向-海外

#### ディメンションデータ社、シスコの TelePresence ビデオマスター・グローバル認定技術プロバイダー (ATP) 企業に認定

ディメンションデータ社(日本法人:株式会社ディメンションデータジャパン、東京都港区)は、シスコシステムズ社から、TelePresenceビデオマスター・グローバル認定技術プロバイダー(ATP)企業に認定されたと発表。(2月6日)

今回認定されることで、ディメンションデータ社は、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、中東、アフリカ、米国の 49 カ国

における、現地企業や多国籍企業に対するシスコテレプレゼンスソリューションの販売を開始する。

同社では、この認定のために、世界規模の販売、技術、サービス機能に投資を行ってきたが、ディメンションデータ社の現場エンジニア、システムエンジニア、プロジェクトマネージャなど 92 名がホストまたはサテライト ATP マスターとして認定されているという。

ディメンションデータ社は、1983年に設立された ICT サービスとソリューションのプロバイダー。売上高は、58 億ドル。シスコシステムズ社とのパートナーシップは 20 年にも及ぶ。同社は、NTT グループの一員(2010年10月)。

### 導入・利用動向-国内

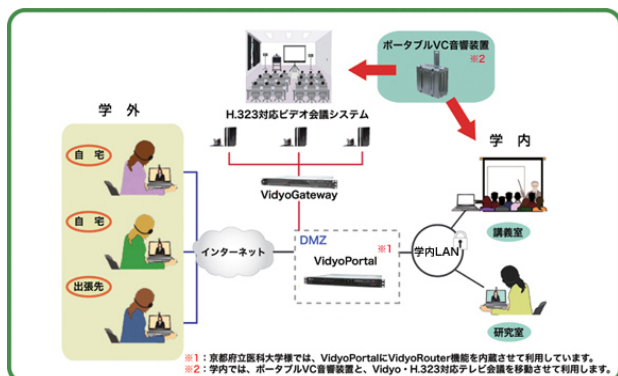
#### 京都府立医科大学、Vidyo ビデオ会議システムを採用、女性研究者の在宅を支援

京都府公立大学法人 京都府立医科大学(京都府上京区)は、文部科学省科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業「しなやか女性医学研究者支援みやこモデル」の採択に伴い、男女共同参画推進センターを設立。同大学では、ライブ授業を行う目的ですでにビデオ会議システムを運用していたが、個々の在宅支援に適したシステムではなかった。そこで、女性医師、研究者が自宅や出張先からも打合せやセミナー・イベントに参加できる環境を整えるため、どこでも利用できる手軽な PC に対応したビデオ会議システムを検討していた。

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)では大学側のこういったニーズを基に、「Vidyo Desktop」を始めとした Vidyo 社製のビデオ会議システムを京都府立医科大学に提案。

京都府立医科大学では、PC で利用できるだけでなく既存のビデオ会議システムとの接続が可能、また映像は低遅延で表情が読み取れるとともに資料も鮮明に送れる、さらには、医療従事者・研究者は Macintosh ユーザが多いため、Windows だけでなく Macintosh に対応している点などを評価し Vidyo 社のシステムの採用を決めた。導入は、2010年11月。また Vidyo システムの他、セミナー用途向けにポータブル VC 音響装置を加えた。なお、回線については公衆インター

ネットを使用する。



システム構成図 (VTV ジャパン資料)

Vidyo システムの学内運用にあたっては、できるだけ多くの人に気軽に使ってもらえることをポイントに、簡単な申請のみで利用出来るシステムをまず設置した。

現在の用途としては、研究者の論文などの打合せ、シンポジウムの様子などのライブ配信、ビデオ会議システムのイベント利用など幅広く活用しているという。



VidyoDesktop を利用した打ち合わせの様子 (VTV ジャパン資料)



ポータブル音響装置：マイク、スピーカー、ケーブル類がワンセットになったシステムが格納されている (VTV ジャパン資料)

メリットについては、どこにいても Vidyo を使うことで資料を見ながら打合せができる点をまず挙げる。やはり論文の

やり取りはメールや電話では難しいという。また、シンポジウムやセミナーに実際に出席できなくても、在宅や研究室などから参加することが容易になった。これによって視聴だけでもいいというニーズに応えられる。さらには、ポータブル音響装置(写真上)と Vidyo を組み合わせることで、場所を選ばずにイベントでビデオ会議システムを活用しやすくなった。

イベント利用としては、2011 年 7 月に開催された「医療従事者の子育て両立支援とは？」などがあるという。

今後は、利用者を増やしていきながら、より広範囲での Vidyo 活用を検討しているという。

具体的には、シンポジウムやセミナー、ミーティング等に Vidyo を使用する機会を増やす。また、通訳を介したコミュニケーションなど病院での活用を模索したいとも考えている。これまでは緊急な場合を含め通訳士に実際に来てもらっていたためだ。加えて、Vidyo は、iPhone、iPad、Android のスマートフォンやタブレットに対応しているため、大学全体で活用できるようなシステムにしていきたいといったことなどがある。

京都府立医科大学としては、ビデオ会議システムの活用の場を増やすことで、大学全体および外部とのコミュニケーションを円滑にし、場所にこだわることなく会議やミーティングに参加できる場を広げていきたいと抱負を語る。

京都府立医科大学 <http://www.kpu-m.ac.jp/>

### セミナー・展示会情報

\*下記リンク先でご参照ください。

< 国内 >

<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

< 海外 >

<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

### 編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本 啓介